


水かけると向くかな？

稲敷市立ゆたか幼稚園（茨城県稲敷市）

[3歳児]

幼児の姿・表現	保育者の援助（○）・読み取り（◇）
<p>①一人ひとりヒマワリの種を植える。 「私のが一番早く芽が出ますように！」</p> <p>②芽が出てきたことに気付く。 「先生、見て見て！芽が出ているよ！葉っぱも広がっているよ！」 「Aちゃんのはまだ葉っぱが広がっていないよ！」</p> <p>③種の殻がたくさん落ちていたことに気付き「この黒いの何だろう？」と拾い集める。 4歳児が蒔いた朝顔の芽の周りなど種蒔きをした植物の周りの殻集めをする。</p> <p>④ヒマワリの生長を感じながら水やりをする。 「お水たくさんかけると大きくなるよね！」 「ぼくもやりたい！いつお花咲くの？」</p>	<p>○自分の蒔いた種がわかるようにポットに名前を書き、いつでも芽の出た様子を観察できるように、クラスの前に置く。</p> <p>○「先生、見て見て！」と毎日伝えにくる子どもの気付きにゆっくりと丁寧に対応し発見したこと、「何だろう？」と思ったことに寄り添っていく。</p> <p>○気付いたことをどンドン言える雰囲気を作る。</p> <p>◇同じように種を蒔いたはずなのに、芽の出方が違うことに疑問をもった。</p> <p>○子どもが疑問に思ったことに対してすぐに答えるのではなく子ども自身が「何でだろう？」と思い、触って試すことを大事にする。（「何だろうね！葉っぱにくっついていいるのもあるね！」）</p> <p>◇早くヒマワリを見たくて重いジョーロを一生懸命持ち上げて水をあげる。たくさん水をあげると早く大きくなり、早く花が咲くと思っている。</p>
<p>⑤咲いたヒマワリを観察し、思いを表現する。 手を叩いて開花を喜ぶ。 「これ、ぼくが植えたの」と家族が来るたびに説明をする。</p> <p>⑥開花したヒマワリがみんな同じ方向を向いて咲いていることに疑問をもつ。 「ヒマワリさん、何見てんだらうね！」 「車、見てんだよ！」 「ヒマワリさんみんなむこう向いているの？何で？」 「お水かけるとこっち向いてくれるかな？」 「お水かけてみようよ」と言い、かける。</p>	<p>◇自分が蒔いた種を育てて咲かせた花への愛情はひとしおであり、とても嬉しい。</p> <p>◇花への関心が高く、よく観たいという思いもあるので、花が同じ方を向いていることや自分のいる方を向いていないことに不思議や疑問を感じている。また、「よく観るようにこちらを向いて欲しい」という欲求があるので、「花の向きが変わるかもしれない」という期待や予想、願いをもって「水をかける」という3歳児なりに積極的なかわりをしていく。</p>
<p>⑦水をかけても向きが変わらないことに疑問をもつ。</p>	

考察

自分たちで育てたヒマワリの花が同じ方向を向いていることに「なぜ？」という疑問をもつ。「こっちを向いてくれるといいね！」という言葉きっかけに「水をかけることで、向きを変えてくれるのでは？」とのアイデアを出してきた。水をかけても向きが変わらないことでさらに子どもたちは「なぜ、水をかけても向きが変わらないの？」と新たな疑問をもった。

子どもなりに疑問をもち、水をかけるという自分たちの考えを試し、さらに疑問をもつというこの姿こそ、本園で考える自然の不思議さに触れ、驚きや「なぜ？」を表現する科学する心の芽生えではないかと考える。そのためには保育者の言葉かけがいかに大切が実感することができた。

ポイント

種を蒔いた所から出た小さな芽を見つけたことで、殻に気付き集めることにつながりました。種が大きなヒマワリに生長し花を咲かせた時の喜びは、ヒマワリの花が同じ方を向いていることに不思議を感じ、「水をかけたら自分たちの方を向くかもしれない」という3歳児なりの**予想や期待をもってかかわる行動につながりました。「科学する心」により意欲的に観たりかかわったりする姿が引き出されています。**